

「福祉サービス第三者評価」等を踏まえたサービス改善計画・実施状況

施設名	みやま大樹の苑	施設番号	K-100
-----	---------	------	-------

項目	評価結果に基づく現状分析 (令和7年度)	改善計画 (令和7年度末時点)	実施状況(予定を含む) (令和8年4月30日時点)	左記実施状況に実施予定が あった場合の実施状況 (年4月30日時点)
利用者や 職員の安全を確保 していくための防災 意識のさらなる向上が期待 される点について	施設では BCP を策定し、計画に沿った訓練を継続して実施しています。見守り体制の強化によりヒヤリハット件数が少なく、事故発生時には迅速に振り返りがおこなわれています。一方で、BCP や土砂・水害対策に関する職員全体の理解促進、ヒヤリハット段階での改善策の徹底、事故再発防止に向けた情報共有体制の強化を課題にしています。利用者や職員の安全を確保していくための防災意識のさらなる向上が課題です。	新しい職員や技能実習生等は、防災意識を高めるために消防計画や施設の設備等を把握し理解するために定期的に防災訓練を行い日常の防災意識を高めていきます。また土砂災害等で停電になった際のフロア間移動を非常階段でスロープを使用し疑似体験するなど計画しています。	1 実施済み 2 実施予定 (年 月ごろ) 具体的には以下のとおりです。	1 実施済み (年 月) 具体的には以下のとおりです。
SNS の更なる活用等での人材確保と、職員の負担軽減につながる取り組みについて	少子化による学生の減少や労働市場の変動で、人材確保が難しい状況が続いています。令和7年3月より技能実習生を受け入れ、人材確保に力を入れ好評です。しかし、人員が不足して業務負担が大きくなる意見が職員からあがっています。職員不足は福祉施設のほとんどが課題となっているのが現状ですが、IT を活用し職員の負担を軽減している施設もあります。SNS のさらなる活用等での人材確保と、職員の負担軽減につながる取り組みが課題です。	介護職員については、令和8年2月に特定技能の外国人を2名、3月に技能実習生を3名受け入れし、6年度からの合計8名となり、フロア職員はかなり充足しました。また、センサー付きベッドを60台導入し、入居者の安全と職員の負担軽減につながります。	1 実施済み 2 実施予定 (年 月ごろ) 具体的には以下のとおりです。	1 実施済み (年 月) 具体的には以下のとおりです。
施設行事の中に散歩の機会や外出等を取り入れて、利用者が季節の移り変わりについて	施設は年間行事が多くあり、それに伴う行事食も季節感があり、バラエティ豊かで利用者の楽しみになっています。嚥下機能の低下している利用者も楽しむことが出来るよう食形態をプリン状化する等の工夫をしています。家族対応であれば外出はできますが、家族が来ない利用者には外出の機会がありません。利用者調査や職員アンケートにも外出が少ないという意見があります。車椅子利用者が多い中、外出支援は難しいと思われませんが、少人数での対応等で工夫することが課題です。	外出頻度が少ない声に対して、今年の春のイベント(春を楽しむ会 3/26 実施)では、市内の桜を鑑賞してもらうよう、苑車でバスハイクを実施。また、ご入居者の声を尊重し、今後も少人数での活動を検討してまいります。	1 実施済み 2 実施予定 (年 月ごろ) 具体的には以下のとおりです。	1 実施済み (年 月) 具体的には以下のとおりです。

※この様式は、「東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助金交付要綱」等の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※第三者評価(又は利用者に対する調査)の結果は、施設において公表しているほか、「とうきょう福祉ナビゲーション」によりインターネットでも閲覧できます。